



特集 エンゲージメント

## ウェルビーイング、DXの活用と エンゲージメントの高い組織づくりへの取り組み

JBICでは、職員一人ひとりの多様な能力が発揮できる環境整備構築のため、2024年6月に策定した第5期中期経営計画にて、重点取組課題Ⅳ「価値創造に向けた組織基盤の強化・改革」として、より明確な目標を掲げました。人的資本経営の実践やDX活用を一層推進し、エンゲージメントの高い組織づくり等を進めています。

CASE  
01

職員が業務を通じてやりがいを得られるよう、  
能力を発揮できる支援制度づくりにまい進



経営企画部  
人事室  
**土橋 秀行**

1996年入行。フロントからバックオフィス部門まで幅広く経験し、人事課長、法務・コンプライアンス統括室長を経て、2024年6月より現職。

JBIC職員は、日本を含む国際社会が抱える複雑かつ正解のない課題に対し、世界の最前線で問題解決に挑戦し続けることが求められています。私自身も、そうした前例のない課題に取り組むことにやりがいを感じ、所属部署・立場や携わる業務・相手国等を問わず働いてきました。職員一人ひとりが変化や失敗を恐れず挑戦する精神と、試行錯誤しながら目標達成に近づこうとする粘り強さ・レジリエンスを持ち、自分が信じたアプローチを突き進むことで、その先にある格別なやりがいを感じてもらいたいと思っています。

JBICでは、中期経営計画でもその基盤となる「人的資本経営の実践」を掲げています。独自の研修体系「JBIC Academia」による OFFJTと、現場経験から将来のキャリアパスを明確にするOJTを組み合わせて、少人数組織の特色を活かしながら、職員人材育成に取り組んでいます。また、職員一人ひとりの多様な働き方を尊重し能力を最大限発揮できるよう、さまざまな両立支援等制度の充実に邁進します。



組織内のコミュニケーション円滑化および心理的安全性向上によるチーム力強化を図り、誰もが働きやすい組織開発を目的にチームビルディング研修を実施しています

CASE  
02

海外留学制度で得た学びを糧に、  
お客様に意義ある業務・ルールづくりや解決策を実現



経営企画部  
業務課  
**鈴木 菜々**

2012年入行。資源ファイナンス部門、財務・システム部門等を経て、2024年米国マサチューセッツ工科大学 (MIT) 経営学修士課程修了。同年6月より現職。

経営企画部で、融資制度運営や特別業務、事業予算等を担当しています。変化が大きい世の中で日々JBICに求められる役割・期待の大きさと向き合い、産業界と日本政府の間に立ち、お客様の声を受け止めて日本政府と連携しながら、意義ある業務・ルールづくりや解決策を実現することに醍醐味を感じています。2023年のJBIC法改正で可能となった特定外国法人向け融資や国内スタートアップ企業等への出資分野は、中期経営計画に掲げる「我が国産業の強靱化と創造的変革の支援」等に資するものとして注力しており、具体的な案件の実現事例も出てきています。

私自身は、人材育成施策である海外留学制度のもと、米国のビジネススクールで起業ファイナンス等を学びました。これまでの職務経験に加えて、留学で得た学びをJBICの業務に還元していきます。また、スタートアップ支援や資源・サステナビリティといった自らの強み・軸を大事にし、JBICでのキャリアを歩んでいきたいと思っています。



米国のビジネススクールで起業ファイナンス等を学び経営学修士課程を修了しました

CASE  
03

ミドル・バックオフィス部門の業務を通じて、  
職員のウェルビーイングを高め、JBICの活動の一翼を担う



経営企画部  
総務課  
**箕浦 健**

2019年入行。社会インフラ部、エクイティ・インベストメント部を経て、2023年より現職。会議体事務局や職員意識調査を担当。

総務課では、職員のエンゲージメント向上という課題に向き合い、職員一人ひとりが抱える課題や悩みを組織運営に活かすため職員意識調査を毎年1回実施しています。経営陣に調査結果を詳細に伝達することで、スピーディーで風通しの良い組織運営に貢献しています。また、組織としての課題を浮き彫りにし改善することで、具体的な施策につなげています。一例を挙げると、DXを活用したさらなる業務効率化の実現や、DEI&B (多様性・公平性・包括性そして帰属意識) を重視した組織風土の醸成に向け2023年に経営陣から発出した「役員コミットメント」を遂行する際の課題の洗い出しです。前年度は「職員意見ボックス」という投書箱制度を導入し、職員が課題を感じたことを迅速に経営陣に届け、組織を日々改善する活動を進めました。地道な取り組みですが、経営陣と協力し、ささいに思えることも見逃さない姿勢で尽力することが、全職員の能力が最大限発揮され、日本と世界により貢献できる組織運営の一助となればと考えています。



役職員間のさらなる交流活発化の場とするべく役員から「私の人生の節目を彩る珠玉のおすすめ書籍」を紹介するライブラリカフェイベントを開催しました



経営企画部  
総務課  
**都築 光**

2019年入行。外国審査部、鉱物資源部を経て、2024年より現職。中期経営計画の運用管理等を担当。

私が携わった取り組みは、オフィスの職務環境を抜本的に変更することでした。コロナ禍により業務環境が変化し、出社とテレワークとの効率的な使い分けが必要になるなど、多様化する働き方に合わせたオフィスレイアウトの変更が急務でした。そこで主に4つの施策を実施しました。①固定席を廃止しグループアドレス制を導入、②個人の集中スペースを多く設置、③日常的に行われている海外とのやり取りのために、オンライン会議ツールが完備された会議室を用意、④「共用スペース」を各エリアに設置し、部署を超えたface to faceのコミュニケーションを最大化させる。この結果、オフィスの見た目が大きく変わったことに加え、職員から「出社しても集中して作業できるスペースがあるので効率が上がった」「オープンスペースの活用により部門を超えた交流の機会が増えた」「仕事に行くのが楽しくなり前向きな気持ちになった」などの声がありました。当時は大変でしたが、職員の働きがいに貢献できたという達成感は何にも代えがたいものでした。



オフィスレイアウトの変更により、新たに設置されたオープンスペース。部門を超えた打ち合わせ等で利用されるスペースとなりました